

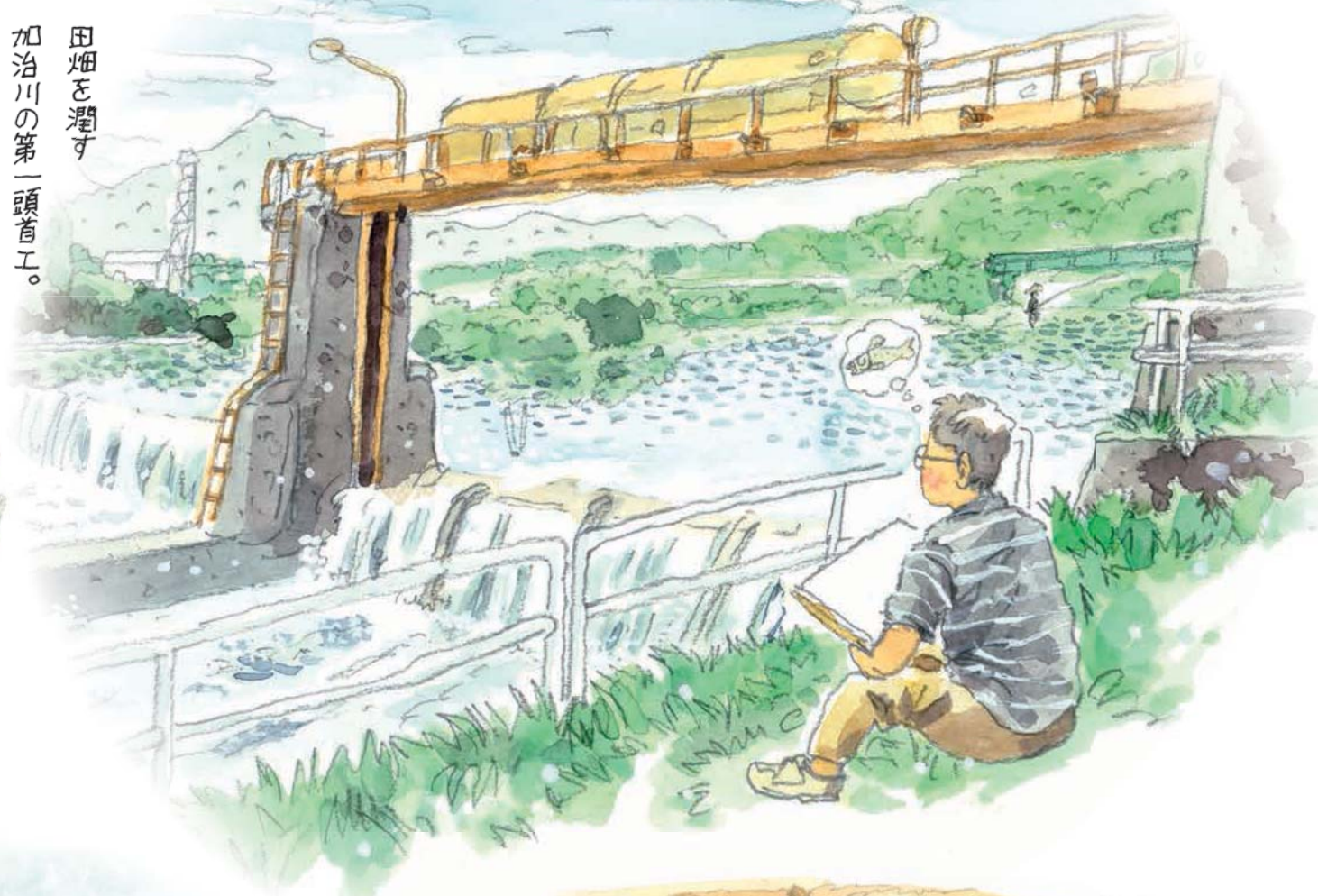


「水利が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

木原四郎の 水利を歩く

新潟市在住のイラストレーター
木原四郎さんが1年をとおり、
新潟農業を支える水の流れを訪ね歩き、
風景や人とのふれあいを描きました。

田畑を潤す
加治川の第一頭首工。
水面を渡る風が
心地よかった。



新築田の高田農園では、
水利の恵みを受けたアスパラが
うまかった。



上江用水路を築いた
先人の偉業は、
上越板倉地区で今も
語り継がれていた。



木々の隙間から
とうとうと流れる
信濃川を望む。
小千谷の土手。
黄金色の涙が
まぶしかった。



小千谷では、
知恵を絞り農業に
取り組む農家に出合った。
清冽な水に感謝。



農業用ダムでは
標高日本一の
笹ヶ峰ダム。
大自然からパワーを
もらった。



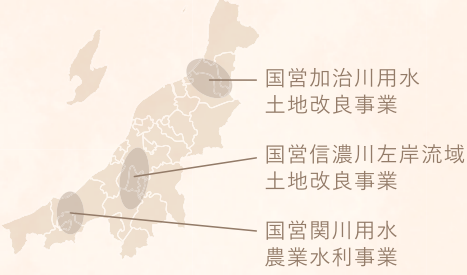
今回の旅で私が
初めて実感した
水利の恵み！
ダムにためた水を河川に送る、
その水を頭首工で取水し
用水路を経て田畑に届く
そして農作物を育てる。
この一連の流れを、現地に立ち
目で確認した。
水が大地を潤す大いなる生命の
もとになっている。



イラストレーター
きほら しろろ
木原 四郎さん

PROFILE
1946年、佐賀県佐賀市出身。
「旅するイラストレーター」として
新潟県内を歩き、風景や人物
を描き続ける。独特の柔らかい
タッチのイラストと心温まる文
章で人とモノとの出会いを紹介
し、人気を集める。NHK総合
「金よう夜 きらっと新潟」に出
演。各地で展覧会も開催する。

木原四郎さんが1年間で
巡った新潟の農業水利事業



掲載された紙面は
特設サイトで
ご覧いただけます



この紙面を読んだご感想を、ハガキ、ファクス、Eメールでお寄せください。

お問い合わせ

「水利が拓く 実りの明日へ」キャンペーン事務局（新潟日報社広告部内）
新潟市中央区万代3-1-1 ●TEL 025-385-7474（土日祝日を除く／10:00～17:30） ●ファクス 025-385-7476 ●Eメール minorori@niigata-nippo.co.jp
◎主催／農林水産省北陸農政局 ◎共催／新潟日報社 ◎後援／新潟県、新潟県土地改良事業団体連合会、JAグループ新潟 ◎企画・制作／新潟日報社広告局

キャンペーン 特設サイト

水利が拓く 実りの明日へ





「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン



「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

2017年度総括シンポジウム&ミニマルシェ 水が育む新潟農業の繁栄



農業に欠かせない水利施設と、その基盤の上で農業に取り組む生産者を紹介し、これからの新潟の農業と農業水利の在り方をともに考える「水が拓く実りの明日へ」キャンペーン。2017年度を総括するシンポジウム&ミニマルシェ（北陸農政局主催、新潟日報社共催）が1月14日、新潟市中央区万代の日報ホールで開かれました。地域活性化モデルの今井美穂さんが基調講演。パネルディスカッションでは、県内の生産者や土地改良区の関係者が「水が拓く実りの明日へ」をテーマに意見交換し、約90人が耳を傾けました。

基調講演

ニイガタ女子が見た食と農

《講師》今井 美穂さん（地域活性化モデル）

プロフィール

1989年、見附市出身。地域活性化モデル、タレントとして新潟を拠点に活動中。新潟ガールズ集団[Lily&Marry's]を結成。田上町の田んぼでコシヒカリや大豆を栽培するなど農業との関わりも深い。第3代新潟県気象大使として県民の健康づくりの提案や地域の魅力を発信している。

代表を務めている新潟ガールズ集団[Lily&Marry's]は、地元を愛し、地元を元気づける方法を見つけ、自分たちで楽しみながら、それを他の人にも知ってもらおうという活動を行っています。その中で農業、若手就農者と出会いました。実家は兼業農家で主に祖父が担い手となっていました。このため、「農業は大変」というイメージを持っていました。しかし、若手就農者が自分の作る作物に誇りを持ち、「これが一番おいしい」と言うのを見て、「農業ってカッコいい」と思う

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

旧越路町の神谷集落でコメを中心として作っています。生産組合は昭和40年代に有志でスタートしました。今は集落の農地の7割を耕作しています。私たちは「抜群に良いもの」ではなく「他よりちょっと良く、品質が安定したもの」を作りたいと考えています。現在、夏場の用水確保に苦労していますが、安定取水ができるよう老朽化した水利施設の改修が予定されています。

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン



神谷生産組合株式会社
代表取締役
丸山 信昭さん



「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

パネルディスカッション

水利が支える地域の未来

～生産・土地改良の現場から～

- 出演者 畔上 克己さん（JAえちご上越いちじく部会長）
丸山 信昭さん（神谷生産組合株式会社代表取締役）
渋谷 幸男さん（加治川沿岸土地改良区連合理事長）
渡辺 仁さん（新潟県土地改良事業団体連合会専務理事）
●コーディネーター 伊藤 忠雄さん（新潟大学名誉教授）

世界かんがい施設遺産の上江用水路が畑の近くを通っている。子どもの頃はここで泳ぎを覚えた。上江用水路は約400年前に先人が作った。と、水源の笹ヶ峰ダムの水を今は農業用水と発電用に、仲良く使っていることが特徴です。農業用水を発電に回したことで上越地域に非鉄金属企業が集まり他産業に貢献しました。イチジク栽培を始めたのは

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

挑戦続け良いものを作る



「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

労力減らし高収益実現



「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

農業経営をリードする 土地改良事業に期待



「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

小さな市場

ミニマルシェ

日報ホールホワイエで開催されたミニマルシェには、上中下越から1店ずつ、計3農家が出展。水利の恵みを受けたコメや野菜のほか、モチや味噌などの加工品を販売しました。野菜高騰の折、開場と同時にホレンソウなどの葉物野菜を扱う参加者も少なくありません。天候や料理法、栽培方法などについて生産者と情報交換しながら、話に花を咲かせていました。



当日は、花の米（上越市）、ナカムラ農産（長岡市）、高田農園（新発田市）が出展しました。



イチジクやサイモ、新品種米の新之助を使った創作料理の数々。美しい盛り付けが参加者の目を引いていました。



「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

プロフィール

1944年、新発田市生まれ。67年、新潟大学卒業。専門は農業経営学、同大教授、副学長などを経て2010年に退職。15年3月まで放送大学新潟学習センター所長を務める。県内で活躍する農業経営者を招き意見交換する「新潟農業経営塾」を主宰。現在、新潟市農業活性化研究センター名誉所長。

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

「水が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

この紙面を読んだご感想を、ハガキ、ファクス、Eメールでお寄せください。

お問い合わせ

「水が拓く 実りの明日へ」キャンペーン事務局（新潟日報社広告部内）

新潟市中央区万代3-1-1 ●TEL 025-385-7474（土日祝日を除く／10:00～17:30） ●ファクス 025-385-7476 ●Eメール minor@niigata-nippo.co.jp

●主催／農林水産省北陸農政局 ●共催／新潟日報社 ●後援／新潟県、新潟県土地改良事業団体連合会、JAグループ新潟 ●企画・制作／新潟日報社広告局

キャンペーン 特設サイト

「水が拓く 実りの明日へ」検索

